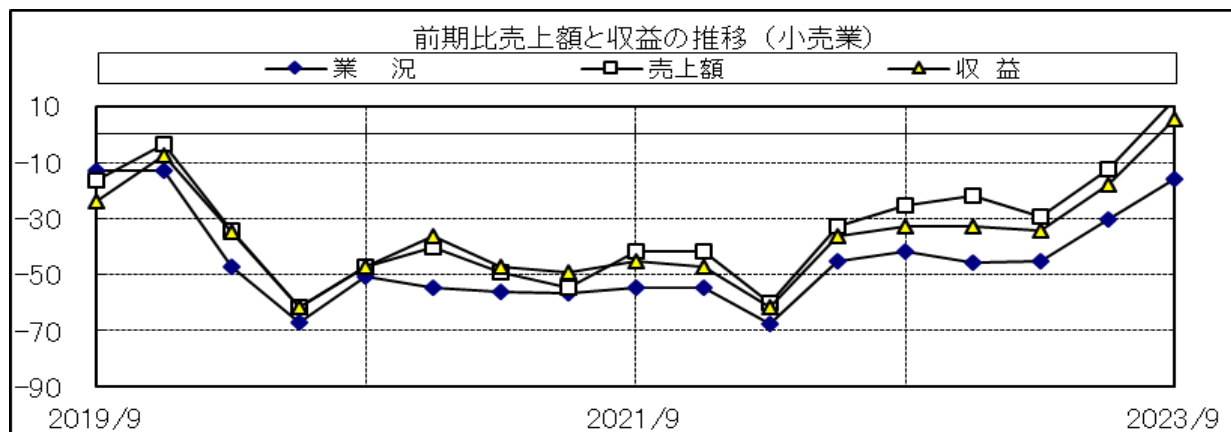


小売業 55企業（回答率 100%）の調査結果です

□ 景況

DI 値 の推移	1～3月 期実績	4～6月 期実績	7～9月 期実績	10～12月 期見通し
業況	-45.4	-30.3	-16.0	-23.2
売上額	-29.2	-12.6	12.5	-1.8
収益	-34.5	-17.9	5.5	-3.6

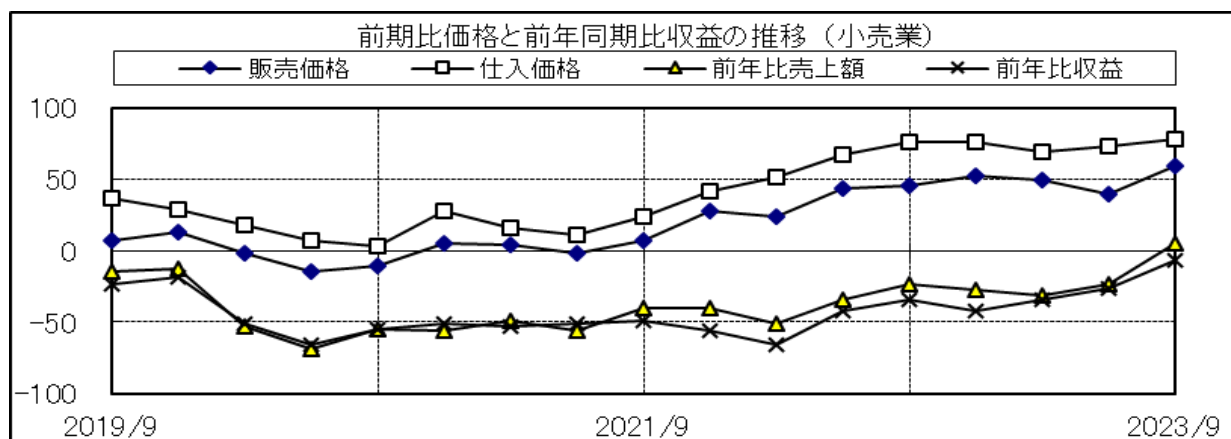
今期の業況判断 D. I. は△16.0 で、前期比 14.3 ポイント上昇。前年（△41.9）比では 25.9 ポイント上昇した。地区別の D. I. は高い順に、えりもが最も高く、次に、様似、広尾、三石、静内と続き、浦河が最も低い水準となった。売上額判断 D. I. は 12.5 で、前期比 25.1 ポイント上昇した。収益判断 D. I. は 5.5 で、前期比 23.4 ポイント上昇した。



□ 価格面の動き・前年同期と比べた動き

DI 値 の推移	1～3月 期実績	4～6月 期実績	7～9月 期実績	10～12月 期見通し
販売価格	49.1	39.2	58.9	30.3
仕入価格	69.1	73.2	78.5	46.3

販売価格判断 D. I. は 58.9 で、前期比 19.7 ポイント上昇。前年（45.5）比 13.4 ポイント上昇した。仕入価格判断 D. I. は 78.5 で前期比 5.3 ポイント上昇、前年（76.3）比 2.2 ポイント上昇した。業種別では、販売価格は衣料・家電業で上昇、食料品業は横這い。仕入価格は衣料・食料品業で上昇、家電業は、横這いとなった。



□ 雇用面の動き

DI 値 の推移	1～3月 期実績	4～6月 期実績	7～9月 期実績	10～12月 期見通し
残業時間	-7.3	-8.9	-1.9	-7.2
人手状況	-21.8	-19.7	-23.2	-19.6

残業時間判断 D. I. は△1.9 で、前期比 7.0 ポイント上昇し、残業時間が増加したとする企業割合が増えた。

人手過不足判断 D. I. は△23.2 で、前期比 3.5 ポイント下降し、人手不足感は強まった。

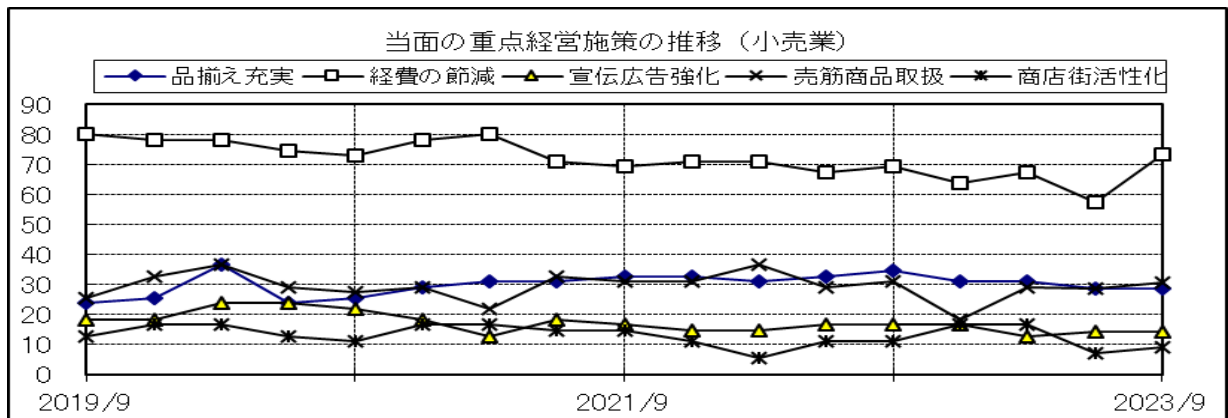
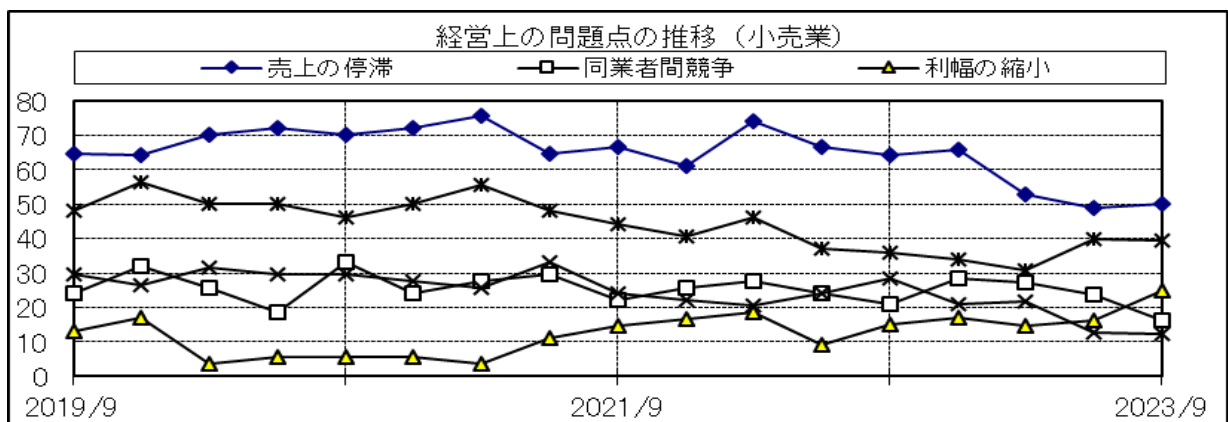
□ 設備投資の動き

設備投資の充足感を示すD. I. は $\Delta 8.9$ で、前期($\Delta 5.3$)比3.6ポイント下降した。
設備実施企業割合は8.9で、前期(5.4)比3.5ポイント上昇した。設備投資は、前期3社に対し5社の実施となった。来期の設備投資は、3社の予定となっている。

□ 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「売上停滞減少」が50.0%と最も多く、次に「商圈人口減少」39.3%、「利幅縮小」・「値上要請」が25.0%、「取引先減少」19.6%、「同業者競合」16.1%、「大型店競合」12.5%、「商店街集客力低下」10.7%、「人手不足」8.9%、「人件費増加」・「諸経費増加」・「店舗狭隘老朽化」が7.1%、「販売商品不足」・「天候不順」が5.4%、「輸入製品競合」・「代金回収悪化」が3.6%となっている。

重点経営施策では、「経費節減」が73.2%と最も多く、次に「売れ筋商品取扱い」30.4%、「品揃え改善」28.6%、「仕入先開拓選別」19.6%、「宣伝広告強化」・「人材確保」が14.3%、「商店街活性化」8.9%、「新事業開始」が3.6%となった。



□ 来期の見通し

来期の予想業況判断D. I. は $\Delta 23.2$ と、今期比7.2ポイントの下降を見通している。

予想売上額判断D. I. は $\Delta 1.8$ と、今期比14.3ポイントの下降を見通している。

予想収益判断D. I. は $\Delta 3.6$ と、今期比9.1ポイントの下降を見通している。

予想販売価格判断D. I. は30.3と、今期比28.6ポイントの下降を見通している。

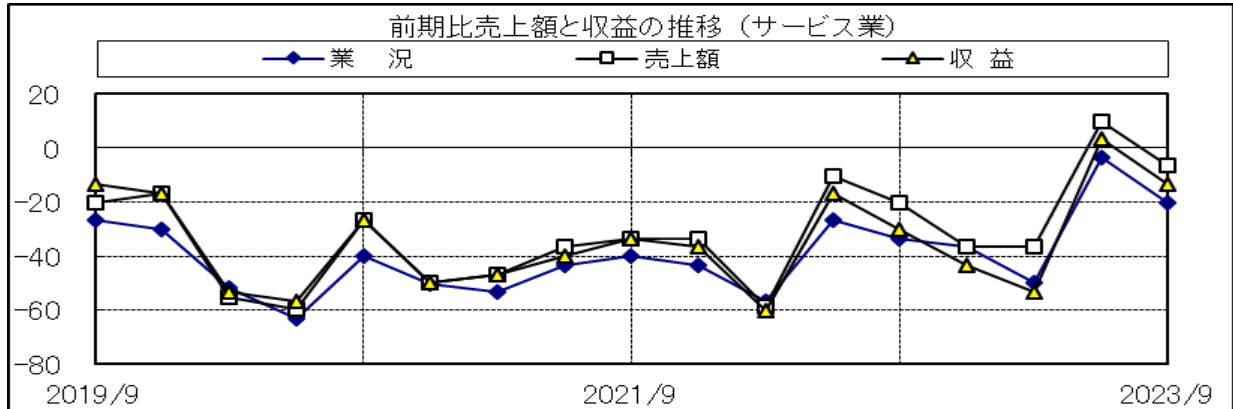
予想仕入価格判断D. I. は46.3と、今期比32.2ポイントの下降を見通している。

サービス業 30 企業（回答率 100.0%）の調査結果です

□ 概 況

DI 値 の推移	1～3月 期実績	4～6月 期実績	7～9月 期実績	10～12月 期見通し
業 況	-49.9	-3.4	-20.0	-16.7
売上額	-36.7	10.0	-6.6	3.4
収 益	-53.3	3.3	-13.3	-10.0

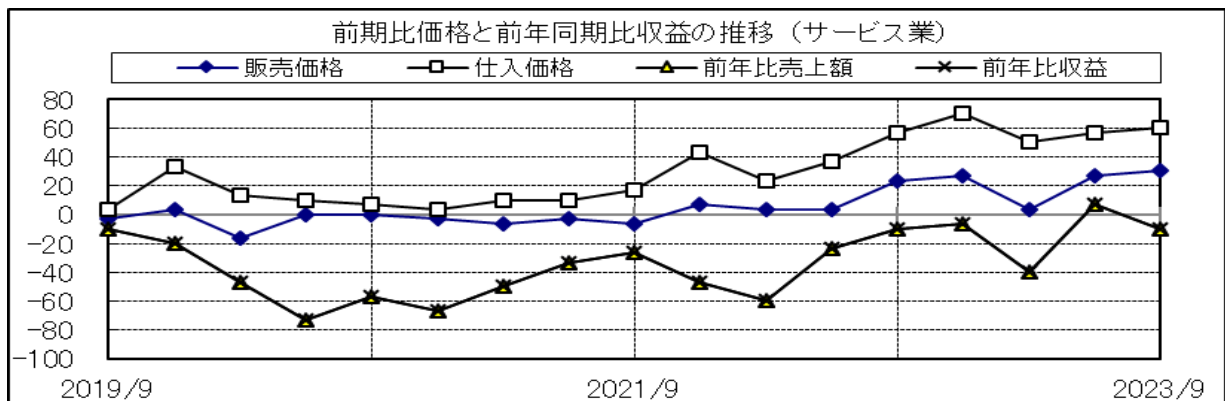
今期の業況判断 D. I. は△20.0 で、前期比 16.6 ポイント下降、前年（△33.4）比では 13.4 ポイント下降した。地区別の D. I. は高い順に、三石が最も高く、次にえりも、静内、広尾、浦河が続き、様似が最も低い水準となった。売上額判断 D. I. は△6.6 で、前期比 16.6 ポイント下降した。収益判断 D. I. は△13.3 で、前期比 16.6 ポイント下降した。



□ 価格面の動きと前年同期に比した動き

DI 値 の推移	1～3月 期実績	4～6月 期実績	7～9月 期実績	10～12月 期見通し
料金価格	3.3	26.6	30.0	30.0
材料価格	50.0	56.7	60.0	46.7

料金価格判断 D. I. は 30.0 で、前期比 3.4 ポイント上昇。前年（23.3）比では 6.7 ポイント上昇した。材料価格判断 D. I. は 60.0 で、前期比 3.3 ポイント上昇。前年（56.7）比で 3.3 ポイント上昇した。業種別の料金価格は、旅館業は横這い、洗濯理美容業・自動車整備業は上昇した。材料価格は、旅館業は横這い、洗濯理美容業は上昇、自動車整備業は下降した。



□ 雇用面の動き

DI 値 の推移	1～3月 期実績	4～6月 期実績	7～9月 期実績	10～12月 期見通し
残業時間	-13.4	13.4	10.0	3.3
人手状況	-20.0	-33.3	-26.7	-26.7

残業時間判断 D. I. は 10.0 で、前期比 3.4 ポイント下降し、残業時間が減少したとする企業割合が増えた。

人手過不足判断 D. I. は△26.7 で、前期比 6.6 ポイント上昇し、人手不足感は弱まった。

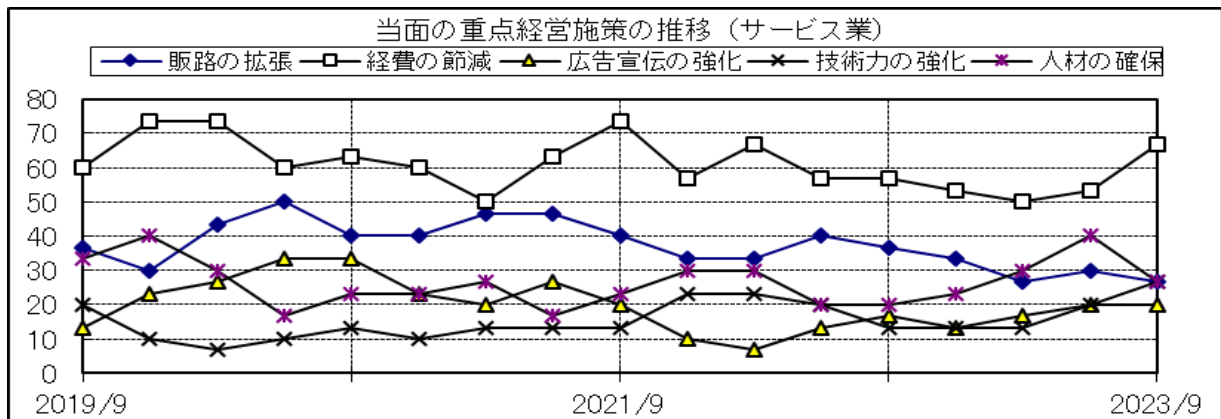
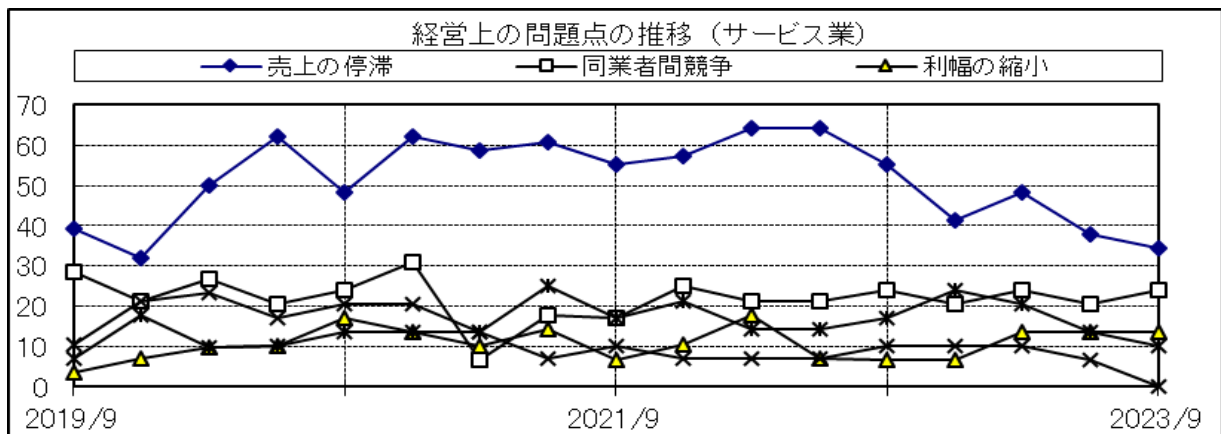
□ 設備投資の動き

設備投資の充足感を示すD.I.は $\Delta 3.3$ で、前期($\Delta 13.3$)比10.0ポイント上昇した。
 設備投資実施企業割合は10.0で、前期(10.0)と同水準となった。設備投資は、前期3社に対し、3社の実施となった。来期の設備投資は、4社の予定となっている。

□ 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「材料価格上昇」が58.6%と最も多く、次に「商圈人口減少」51.7%、「売上停滞減少」34.5%、「同業者競争」24.1%、「人手不足」20.7%、「利幅縮小」13.8%、「取引先減少」・「地場産業衰退」が10.3%、「大手企業競争」6.9%、「合理化不足」・「料金値下要請」・「諸経費増加」・「技術力不足」・「店舗設備老朽化」・「代金回収悪化」が3.4%となっている。

重点経営施策では、「経費節減」が66.7%と最も多く、次に「販路拡大」・「技術力強化」・「人材確保」が26.7%、「宣伝広告強化」20.0%、「提携先確保」・「機械化促進」・「労働条件改善」が6.7%、「教育訓練強化」3.3%となっている。



□ 来期の見通し

来期の予想業況判断D.I.は $\Delta 16.7$ と、今期比3.3ポイントの上昇を見通している。
 予想売上額判断D.I.は3.4と、今期比10.0ポイントの上昇を見通している。
 予想収益判断D.I.は $\Delta 10.0$ と、今期比3.3ポイントの上昇を見通している。
 予想料金価格判断D.I.は30.0と、今期と同水準を見通している。
 予想材料価格判断D.I.は46.7と、今期比13.3ポイントの下降を見通している。